

科目の内容（シラバス）

②授業科目名	③必修／選択の別	④単位数・単位時間数	⑤実践研修項目	⑥担当教員名	⑦実施形態
日本語教育実習	必修	2	1・2・3・4・5・6	中石 ゆうこ	対面
⑧授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】実践（模擬授業、教壇実習）を通して、これまでに修得した日本語教育の専門的知識と実践を有機的に結び付ける。学習者の言語能力、文化の違いに配慮してコミュニケーション方法を柔軟に調整する技術を身につける。日本語教育実習を通して、外国語（第二言語）としての日本語を学ぶ外国人の視点を複眼的に捉える。実践前の授業見学（日本語学校と大学）を通して、日本語教育現場の実際を知り、教壇で教えることのイメージづくりを行う。さらに、教壇実習で担当する学習者のニーズや背景を聞き取り、それに合わせた授業内容を計画する。実践の後は、ふりかえりを丁寧に行うことで、自らも教師として、客観的に自己の実践をふりかえり、他者のフィードバックを柔軟に取り入れることで、人間として成長していく態度を育てる。 【授業の目標】【知識・技能】①学習者の能力、ニーズに合わせた外国語（第二言語）としての日本語授業の組み立て方、授業運営のリソースに関する知識を得て、適切に用いることができる。 【思考・判断・表現】②授業の良いところ、改善点を客観的に評価し、表現できる。③異なる文化や価値観を持つ学習者の反応に合わせて臨機応変に対応して、問題や課題を解決しようとする意識を持つことができる。 【主体性・協働性】④ふりかえりでの議論に積極的にに関わり、授業の改善点、課題を他者に具体的に提案できる。				
⑨授業の概要	受講生はオリエンテーションで教壇実習までの心構えに関する情報を得る。授業見学では、教壇実習を行う日本語クラスで大学教員による実際の日本語授業を見学する。イメージを膨らませた後、授業準備として留学生へのインタビューを通じてニーズやレディネスを把握する。模擬授業を通して、他の受講者や教員からのフィードバックを得て、自らの指導をふりかえり、改善したうえで、各実習生2回（45分／回）の教壇実習を行う。教壇実習では日本語を母語としない学習者に対して授業を実施する。実践（模擬授業・教壇実習）の後は、毎回ふりかえりの時間を取るが、最終回にはそれに加えて実践研修全体総括を行う。総括として受講生には、この授業で学んだことを問う期末レポートを課す。この科目では、日本語教育に関する専門知識を実際に教壇に立つことで検証しながら、日本語指導能力を高める方法を考える。模擬授業、教壇実習のふりかえりを通して、授業の改善点に気づけるようになる。授業の各段階に教員は以下の観点でファシリテーションを行う。 ①【授業準備】学習者のニーズやレベルに合わせて、どんな教授法、シラバスが適切なのか考える。単なる知識の伝達ではなく、コミュニケーション能力を育成する内容になっているだろうか？（コミュニケーション能力を育成） ②【授業準備】日本語授業の教案、教材を作成する。日本文化の前提がなく、日本語を母語としない学習者にとって分かりやすい授業になっているだろうか。教材にはICTをどのように用いることができるか。著作権は守られているか。（ICTの効果的な活用方法、情報資源の扱い方）学習者はどんな気持ちで日本語の授業を受けているだろうか？別の文化、言語を持つ学習者からは日本語の授業はどう見えるだろうか？（異文化理解能力や、異文化接触場面におけるコミュニケーション能力） ③【授業見学】【模擬授業】【教壇実習】学習者の日本語レベルに合わせて、伝わるように日本語（文型、語彙、表記）を調整して用いる。授業ではどんな誤用が出るだろうか？どんなフィードバックが適切だろうか？（誤用の分析及びフィードバック方法） ④【授業見学】【模擬授業】【教壇実習】学習者の目線から見て、授業でどんな質問が出るか、授業はどんなふうに見えるか考える。				
⑩授業計画					
授業回等	各回の授業内容				各回に含む実践 研修項目番号
1	オリエンテーション、授業計画				1
2	日本語授業の見学（1） 日本語学校				2
3	日本語授業の見学（2） 日本語学校				2
4	日本語授業の見学（3） 大学				2
5	準備（1） ニーズ、レディネス分析、コースデザイン				3

6	準備（２）教案作成、教材作成	3
7	模擬授業（１）とふりかえり	4
8	模擬授業（２）とふりかえり	4
9	模擬授業（３）とふりかえり	4
10	模擬授業総括、実習の準備	4
11	実習（１）とふりかえり	5
12	実習（２）とふりかえり	5
13	実習（３）とふりかえり	5
14	実習（４）とふりかえり	5
15	実習（５）とふりかえり	5
16	総括	6
⑪使用テキスト		森篤嗣(2019)『超基礎日本語教育』くろしお出版
⑫参考書・参考資料等		由井紀久子他『中級からのプロフィシエンシーライティング』凡人社 島野節子他『改訂版分野別カタカナ語彙トレーニング』スリーエーネットワーク
⑬同時双方向性の確保 (通信で実施する科目のみ)		
⑭学修課程の管理方法 (通信で実施する科目のみ)		
⑮学生等に対する評価 (評価基準・評価方法等)		授業見学 授業見学レポート(10%)(到達目標①②) 模擬授業・教壇実習 教案・教材・パフォーマンス(40%)(到達目標①②③) 実習観察レポート・ふりかえりでのコメント(20%)(到達目標①②) 最終課題 最終レポート(30%)(到達目標②④) ※模擬授業、教壇実習のパフォーマンスだけではなく、準備段階での主体性、指導者や他の受講生との協働性も含めて評価する。